

337-A地区

福岡県・つくし中央ライオンズクラブ

校区型ライオンズクエスト 公開授業



2月14日、福岡県春日市にある市立春日中学校と市立須玖小学校でライオンズクエスト（LQ）の公開授業が行われた。保護者を中心にライオンズ・メンバーや、他地区小中学校の関係者も多く訪れ、授業に見入っていた。

この春日中学校区には須玖小学校と市立春日小学校がある。実はこのどちらの学校もLQを採用しており、春日地区の子どもたちは義務教育の間LQにのっとった授業を受けることにな

るという全国でも珍しい校区なのだ。

この地区で最初にLQを採用したのは須玖小学校だった。2011年10月、教育委員会の研修会で紹介されたLQに興味を持った小宮都賀最校長が当時地区のクエスト推進委員だったつくし中央ライオンズクラブ（畑中孝之会長／70人）の井井手口敬介にプログラムを見せてもらったのがきっかけだった。学校運営協議会とPTAの承認を得た小宮校長は、12年1月につくし中

央ライオンズクラブに依頼し、教職員向けミニ・フォーラムを開催してもらった。結果、教員全員が支持し、その年から導入された。その後、13年に春日中学校で、14年からは春日小学校でも導入され、LQが校区全体で実践されている。須玖小学校に導入された頃はまだ小学校向けのプログラムがなかったため、先生方で内容を研究し、独自にアレンジした小学校に合うプログラムを作成した。このプログラムは今でも使用されている。

この導入にはつくし中央ライオンズクラブの思いがあった。実は337複合地区内でA地区がいちばんLQの普及が遅れていた。年次大会などで他地区の報告を聞く度に忸怩たる思いがあったという。井井手口が推進委員になり、LQへの関心が高まっていた時に須玖小学校の話が出たため、クラブでは支援を決め、推進してきた。



教育は短期間で効果が出るものではない。そのためクラブでは導入の際に打ち上げ花火のような単発ではなく、継続して支援することを約束した。それか

ら3年。LQは地域に浸透しつつある。須玖小学校では児童の健康に対する意識が向上したという結果も出ている。また、あいさつをする児童も増えるなど、子どもたちに良い影響が出てい

ると小宮校長は語る。だが同時にこうした変化は数値化出来ない部分であり、どうやって評価を明確化していくかが今後LQを長く続けていく上での課題だという。（取材／井原一樹）